

小山田桜台団地のまちづくりに関する説明会
参加者からの主なご意見と市の考え方

日 時：2019年8月4日 日曜日 10時～11時30分

場 所：小山田南小学校体育館

参加者：84名

主な説明内容 まちづくり構想（素案）について 地区計画（素案）について

<まちづくり構想(素案)に関するもの>

	主なご意見	市の考え方
1	多摩都市モノレール延伸が構想の前提となっているが、本当に延伸の可能性はあるのか。団地住民は30年前の入居当初から延伸すると聞かされている。	多摩都市モノレールの延伸は、2016年4月に国土交通省の交通政策審議会がまとめた答申において『「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿」を実現する上で意義のあるプロジェクト』とされ、これまでの検討段階から調整段階へと実現に向けて大きく動き始めています。このことから、市が想定する延伸ルート沿線に位置する小山田桜台団地においては、多摩都市モノレール延伸を見据えてまちづくりを進める必要があると考えています。
2	多摩都市モノレールの延伸の有無にかかわらず、団地住民の身近な問題に関するまちづくりを検討してほしい。	まちづくり構想の「7. まちづくりの進め方」に示すとおり、まずは、団地内外の公園・緑や未利用地の活用などといった身近なまちづくりを、住民のみなさんと一緒に進めてまいりたいと考えています。
3	多摩都市モノレール延伸に向けたまちづくりについて、市はURと協定を結ぶなど積極的に推進していると認識している。しっかり構想をまとめ上げ、まちづくりに取り組んでいくことが団地のブランド化につながる。その一環として、まちづくりの活動拠点を団地内のセンター等に設置することを考えてほしい。	多摩都市モノレール延伸に向け、沿線団地として魅力を向上していけるように、まちづくりに取り組んでまいります。まちづくりの活動拠点というアイデアも参考にしながら、住民のみなさんや、関係団体と一緒に具体的な内容を検討してまいりたいと考えています。
4	段階的なまちづくりの進め方について、それぞれのステップは時間的にどの程度を考えているのか。地域ニーズを考えると介護施設やサービス付き高齢者向け住宅の立地も想定されるが、10年先では長すぎる。団地住民の高齢化を考えるとステップ2を急ぐことが必要。	まちづくり構想の「7. まちづくりの進め方」に示すとおり、それぞれのステップを5年程度で進めていくことをイメージしています。まずは、まちづくり構想の策定後に予定している都市計画の決定・変更により、地域ニーズを踏まえた施設の立地を可能にするなど、着実にまちづくりを進めてまいりたいと考えています。
5	団地にあった診療所が閉鎖され無医村状態になっている。まちづくり構想の	診療所が閉鎖されていることについては認識しております。団地内の医療や福祉サービスなどの充実について

	課題に入っていないのはなぜか。	は、課題の一つとして、まちづくり構想の「5.団地の課題」の「高齢者の継続居住の支援」という項目にも記載し、住民のみなさんや、関係団体と一緒に検討してまいりたいと考えています。
6	まちづくりに対して住民は何をすればよいのか教えてほしい。協力していきたい。	まちづくり構想策定をきっかけに、まずは、まちづくりを検討する場づくりをしていきたいと考えています。住民にみなさまには、積極的に参加して意見を聞かせて頂きたいと思います。

<地区計画(素案)に関するもの>

	主なご意見	市の考え方
1	診療所が閉鎖されて困っているので、診療所を誘導する方法がないか考えてほしい。	地区計画では、コミュニティ地区全域に医療施設の立地が可能となるような計画としています。医療機関も含め住民の生活に資するサービス機能の誘導を図ってまいりたいと考えています。
2	分譲住宅住民の共有の土地である広場を地区施設として定めるのは、都市計画として妥当か。	地区計画では、現在の街並みを守ることを前提としていることから、一団地の住宅施設で位置づけられている公園・緑地等は地区施設として保全する考えです。
3	地区施設の道路を一律に区画道路としているが、バス通りはシンボルロードであり、他の道路とは区別してヒエラルキーをつけるべきではないか。	バス通りとその他の道路では性格が異なることは認識していますが、地区計画上は地区施設としての名称であり「区画道路」に統一したいと考えています。

<その他>

	主なご意見	市の考え方
1	賃貸住宅で空き室が増えていることについて、市はUR都市機構と対策を協議しているか?	空き室対策も含め、団地の再生について総合的に協議しています。まちづくり構想を実現し、団地の魅力を向上することが、新たな入居を促進し、空き室対策にも繋がると考えています。
2	かなり以前から、まちづくり協議会主導で地区計画の検討が進められてきたが、このタイミングで、市が主体となり検討が加速した理由はなにか。	2019年5月に、まちづくり協議会から市に、これまでの検討結果をまとめた報告書を提出頂き、団地居住者の考え方が整理されたものと捉えています。 一方で、団地の周辺では多摩都市モノレールの町田方面延伸など将来的に環境が大きく変化していくことが予想されています。市としては、このタイミングを逃さず、まちづくりを推進する契機にするため、スピード感を持って取り組んでいきたいと考えています。
3	EV 増設などバリアフリーの事例を教えてください。	住民のみなさまと、まちづくりを検討する場をつくり、バリアフリーも含めた参考事例などを紹介したいと考えています。